

＜センター通信3月号＞

～インフルエンザ患者がまだまだきますね～

中津川市地域総合医療センター 野崎博司

今年は暖冬で、2月頃から急に冷え込むにつれてインフルエンザが流行しています。手洗いうがい、感染予防はしていますか？ワクチン接種しましたか？陽性の患者さんを多くみる中、陰性の患者さんにもインフルエンザとしての対応は必要です。それじゃあ検査してもしょがない？一般的な疑問を学び、毎年問題になるインフルエンザについて勉強しましょう。

・インフルエンザAとBウイルス？ってどう違うの？

実はインフルエンザウイルスはA, B, Cと3種類存在します。その中でAはH抗原、N抗原というたんぱく質で構成される成分が前者16種類、後者9種類ありこれらが毎年変異するため、我々は毎年予防接種をする必要が出てくるのです。

B型はA型より変異しにくく、C型はおそらく変異がおこらないといわれており、実際毎年、パンデミックという大規模なアウトブレイクはA型によって起こっています。

・インフルエンザ迅速検査の信用性は？

迅速キットは2000年に発売され臨床現場で使用されるようになったもので、時間がたつにつれ検査の問題点が色々わかってきました。その大きな問題点は早期の検査では感度が低く検出されないということです。報告によりまちまちですが、6時間未満で70.6%、12-18時間未満で75.9%、18-24時間未満で95.5%、24-48時間未満で87.5%となっています。つまり当日発症しても4人に1人は陰性とでてしまい、実際当日発症で受診された方は検査で陽性が出る確率は少ないように思います。

・検査は必要？

そのため発症早期で受診しても陰性とでてしまった場合、希望があれば翌日再度受診して再検査をしますが、それは時間的にもコスト的にも有意義とは言えません。そのため実際のところ1回目の検査が陰性でもインフルエンザウイルス感染症として対応しています。その理由の1つにインフルエンザは飛沫感染のため確定ではなくてもそのように対応することで二次感染を予防する意味合いがあります。また2つ目にもそもそもインフルエンザウイルスは検査前確率高い疾患ということです。

つまり流行期に普段元気な人が急に40度近い熱を出し、全身の筋肉痛を認め、さらに周囲にインフルエンザにかかっている人がいて... という方は典型的であり、ほぼ確実にイ

インフルエンザと診断できます。ただし典型例でなければ他の感染症を考慮する必要があることは言うまでもありません。

・抗ウイルス薬は本当に必要？

そもそもウイルスによる感染症は自身の免疫力で自然治癒します。なので一番の治療はしっかり療養し、水分をよくとることに尽きます。またインフルエンザの罹患期間は急性期2-5日間で計1週間たてばほとんどが回復へと至ります。いやいや薬を飲めばあっという間に治るんでしょ、という人がいるかもしれません。現在色々な薬があり、有名なのはタミフルやリレンザ、その他点滴、吸入タイプのもがあります。そでぞれ状態に合わせて使い分けをしますが、結果的には文献によって異なりますが臨床症状出現から48時間以内に投与した場合で約1日短縮するという答えが出ています。検査に関しては1日以上たたないと陽性になりにくい事情や2日までに内服しないと投薬するメリットが乏しかったりとなんともはやといったところでしょうか。やはりまずは免疫力を回復するのが先決ではとってしまうものです。

ただ、上記の内容は基本免疫力がある人を対象にした話で、赤ん坊や小さいお子さんであつたり、高齢者で免疫力が落ちている人、妊婦さんであつたりそもそも免疫力低下を持つ人は罹患期間が延長したり、重症化することがあります。

そういった方はインフルエンザに罹った場合は速やかに医療機関受診し抗ウイルス薬による治療が必要と思われます。

・予断ですが

インフルエンザが流行る時期に限って、入試であつたり、重要な試験があつたりと夜更かし、食事の不摂生をして体に負担をかけることで余計に流行が増大し時期も長引いてしまいます。診察室にもこの日のために無理して頑張ってきたのにと親子連れで悲壮感漂わせながら受診をされるのを見ると切なくなってしまうものです。いっそのこと試験の時期を流行らない夏にすればと思ってしまうかもしれませんが、実は冬に流行するのは温帯地域の話で、熱帯地域では1年中インフルエンザによる感染症があり日本では沖縄でよく見られます。また北半球では12月~4月に流行し、南半球は5月~10月に流行することを考えると、海外旅行が簡便にできる現代ではあまり時期は意味をなさないかもしれません。やはり手洗いうがいをして日ごろから感染予防をしておくのが一番なのかもしれません。